

設立趣旨書

平成13年4月10日

コミュニティー農園“いやしの里”

日本人の生活が豊かになり、世界第二の経済大国と言われるようになった。反面、合理性、効率を追求するあまり、人々の肉体的、精神的な負担は大きくなる一方だ。高速で突っ走る人間社会についていけない、多くの人々が居ることも事実であろう。

日頃の疲れを癒す場、一寸我が家を離れ、くつろげる場、時を忘れ、人間関係を忘れ、自分だけの世界に浸れる場、共通の話が出来る仲間がいる、そんな空間が必要な時代ではないだろうか。

又、我々の食の安全確保が求められて久しい。食の安全とは一つは食べて安心なもの、そしてもう一つは安定供給と言う事であろう。

食べて安心とは薬害等、食物に有害な物質が含まれてないということが第一である。そして安定供給とは現在日本の食糧自給率が先進国中最低の40%を切るという状態にあることも問題であろう。

日本民族はそもそも農耕民族である。土に親しみ、土の恩恵を受けて今日の繁栄の基礎を築いたのではないだろうか。

何時の間にか工業立国を目指し、合理性、効率を追求する余り、農耕民族の意識を忘れてしまったのではないだろうか。

人間社会の原点を考える場所をつくり、日頃の疲れの癒しを求める人々に、『ほっと』する空間、安らぎの場を提供する。

又、多量の化学肥料や、殺虫剤、除草剤等の農薬を使用し、土壌汚染、地下水汚染等、環境に良くないと思われる現在の農業を見直し、安全性の高い、化学肥料や、農薬を全く使用しないで栽培する農産物を生産し提供する。

土への親しみを求める人には、農園を耕してもらい、自ら作った安全で、新鮮な、旬の生産物を楽しんでいただく。

安全な素材を使用して料理を楽しむ、コミュニティーレストランを営む。定期的にイベントを開催し、地域の人々と交流し、地域の活性化にも寄与し、日本古来の文化の伝承を図っていく。すなわち、衣、食、住、祭り、民芸品、遊戯等々。

社会生活に疲れた人々に潤いと、活力を与え、分断された人間社会を見直し、明日への希望に繋げることを目的とする。

これらの目的に賛同する会員を広く募り、会員を中心とした会費制による運営を図るものである。

今、なぜ有機肥料無農薬農産物なのでしょう

食品の安全性が叫ばれて久しい今日、なぜ有機肥料で栽培した無農薬の農産物が話題になるのでしょうか。

化学肥料で栽培し、農薬を使った農産物が良くないのでしょうか。

本来、畑や田の土の中には、有用な微生物が沢山住み、土や作物に元気を与え、病害や、害虫に強くなるよう働いています。

しかし、速効性を目的とした化学肥料や、防虫、除草、病気予防などを目的とした農薬を使用すると、土の中に居る有用な微生物が生きていけなくなり作物に元気がなくなります。作物に元気がなくなると病気になる、害虫がつきやすくなります。そこで、病害や害虫が増えるため、さらに化学肥料や農薬に頼ることになり、悪循環に陥る訳です。

そして、作物だけでなく、土壌汚染や土壌破壊（窒素化合物が増え、酸性土になる）地下水汚染などに繋がります。

又、農業者自身にも悪影響が出るのが心配されています。

有機肥料とは、落葉や、枯草、わらなどを発酵したもの＝堆肥、又家畜の糞尿などを完全発酵したものを一般的には言います。

これらの肥料は、化学肥料に比べ、効果が遅く、遅効性といわれ、従って農作物の生産効率が落ちると言われています。

しかし、長い目で見れば有機肥料を使い、土を元気にして、作物を育てることが、土や、人に良い影響を与えることになります。

多少生産効率が悪くとも、多少虫に喰われていても、人にとって安全、新鮮が一番でしょう。そして、季節に出来る旬のものが一番でしょう。

昨年迄、“いやしの里”の農園は過去8年間、作物を作らず、化学肥料や、農薬を一切使用していませんでした。

そして、今、有機肥料をふんだんに施し、土を元気にはしています。これからも化学肥料や、農薬を使うことは全くありません。

この“いやしの里”でとれた農産物は、化学肥料や、農薬を一切使わず、完全な有機、無農薬栽培です。

更に、旬の作物を旬のまま、安全、新鮮さを「ウリ」にしています。特に野菜は露地栽培の旬のものが、一番美味しく、最高です。

どうぞ、安心して安全で新鮮な旬の野菜をお召し上がりください

コミュニティ農園“いやしの里”

「ほっと」する空間！ コミュニティー農園

“いやしの里”

水戸近郊、静かな里、常北町に誕生!!

[会 員 募 集 中]

- 日頃の疲れを癒しに、あなたの心のオアシス「ほっと」する 空間にいらっしゃいませんか
- 空気がさわやかです。時間が止まっています。花が、木々が微笑んでいます。小鳥達が歌っています。昔、懐かしい総檜づくりの、露天風呂にも入れますよ。
- 近くに、名刹「小松寺」、オートキャンプ場「ふれあいの里」、「藤井川ダム」などがあります。
- 化学肥料や、農薬等を全く使わないで作った、安全性の高い、旬の新鮮な野菜が豊富にあります。合鴨農法による、お米や、古代米もありますよ。
- 休日に心地良い汗をかいて、安全で新鮮な野菜づくりをしませんか、
自分達で作る、貸し農園を用意しています。専門家が丁寧に指導します、農具もお貸しします。
1区画10㎡から用意できますよ。
- 気軽に話せる仲間作りをしませんか。
定期的を開催するイベントにも参加して下さい。
夏はテントを張ってキャンプもできます。
宿泊も可能です。(しばらく料理作りはご自分でお楽しみください)
コミュニティーレストランのオープンも計画中です。
- 当会は政治、宗教、思想などの関係団体ではありません、営利を目的とするものでもありません。
将来、非営利団体 NPO 取得も検討中です。
- 会費は年会費お一人様、~~1~~¹, 000円です。
- 連絡場所、住所: ☎311-4312 常北町磯野 284
代 表 小 林 利 信 (電話:029-288-4882)



「ほっと」する空間！

コミュニティー農園 **“いやしの里”** の四季

春 **桜**

樹齢約100年と思われる見事なしだれ桜があります。
高さ約25メートル、広がり約30メートル、花の時期には
声を飲むほどの見事さです。

夏 **蝉、蛍**

昼は杉木立の間から蝉時雨、夜は近くの田に蛍が舞います。
もちろんテントも張れます。
家族や、仲間とのキャンプも楽しいでしょう。

秋 **実り**

化学肥料や、農薬を一切使わない安全な美味しい野菜をはじめ、
栗、柿、お芋など、正に食欲の秋を満喫させてくれます。
晩秋には新そばの香りも楽しめます。

冬 **静けさ**

都会から全く逃れることができます。温かい炬燵に足を入れ、
思い切り静けさを味わってください。
きっと、あらゆる俗世から心が洗われると思います。

コミュニティー農園“いやしの里”は日頃の疲れを癒す人の為に、「ほっと」
する空間をつくり、明日への活力に繋げて貰おうと企画いたしました。

更に、食の安全を願い、化学肥料や、農薬を全く使わないで、畑や田を
耕し、本当に安全で美味しい旬の農産物をつくっています。米をはじめ、
各種野菜はもちろん、栗、梅、柚子、キュウイ、等も農薬は一切使って
いません。

できるだけ沢山の人たちに来て貰おうと、会員を募り、会費制で運営し
ています。イベントも2ヶ月に1回開いています。

もちろん、政治、宗教、思想などの関係団体ではありません。
どうぞ安心して仲間づくりを楽しんで下さい。

(連絡先) **常北町磯野284 代表 小林 利信 (TEL: 029-288-4882)**

昨年一年を振り返る！

平成一七年が明けました。皆様良い年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて今年はどうなるのでしょうか。

昨年、世界に目を向ければ「イラク戦争」に尽きるのではないのでしょうか。短期決戦と言われ、米国の勝利宣言は早かったのですが、その後のテロによる米国軍との戦いは一向に収まる様相がありません。米国軍の戦死者も千名を越えました。対するイラク国民の死者はその何十倍にもなるのではないのでしょうか。

戦争の是非はともかく、人間同士の殺し合いに変わりはありません。不幸なのはイラク国民と共に犠牲となった各国の多くの兵士を含めた人達です。日本人にも犠牲者がいましたが、国際貢献とは何なのか、人的貢献とは何なのか、唯黙って見ていることが良いとは思いませんが、疑問が付きまといまいます。何も出来ない身としては、早く終わってくれと祈るばかりです。

そして、暮も押し迫って、インド洋地震津波による大災害が発生しました。日本人を含めた犠牲者の数は半端なものではありません。

日本も昨年は大雨、猛暑、台風、そして新潟県中越地震と、過去にないようなダメージを受けました。自然の災害とは言え、その怖さを身にしみて受けたような気が致します。これを単なる天災と受けてしまうのか、あるいは人間による地球環境の破壊が原因と受け取るのか。

皆さんはどのように思いますか。
当「いやしの里」も設立以来、四年が過ぎました。会員の皆様の数も増え続けていますし（現在七〇余名）、来園者も増えています。

イベントなどによる来園者の推移を比べると、
平成十三年 九〇名
平成十四年 二五六名（NHK、BS放送参加者含む）
平成十五年 二二九名
平成十六年 三二三名
となっております。

今年もイベントを次のように予定しています。

- 二月 味噌づくり、四月 お花見
- 六月 定期総会（梅落とし）
- 七月 じゃがいも堀 九月 さつまいも堀
- 十一月も煮会（新そば）

それぞれ、期日が決まりましたら、会員の皆様にはハガキでご案内させて頂きますので、ぜひ、ご友人等お誘い合わせの上ご参加下さい。

今年も「ほっと」する空間「日頃の疲れを癒し」に来園して頂けるよう皆さんのご意見、ご要望をお聞きしながら、更に充実した運営を心掛けてまいります。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新潟県中越地震被災者に見舞金贈る！

沢山の犠牲者と、数々の被害をもたらした、新潟県中越地震、被災者の方々には何と申し上げて良いか判りませんが、心からお見舞い申し上げます。私達としても何か被災者の皆様にお役に立つことではないかと考え、取り敢えずお見舞金を送ることに決めました。昨年十一月十四日開催のイベント「いも煮会」の参加者と呼ばびかけましたところ、賛同して下さいました。運営資金の一部を加え、丁度一万円にして、常北町社会福祉協議会を通じ、被災者の皆さんに贈りました。

僅かの金額ではありますが、私達の気持ちの一部が通じればと思います。被災者の皆様にはこれから長い雪の季節、春の来るのが待ち遠しいとは思いますが、くじけることなく一日も早い復興に向けて、皆と力を合わせて頑張りたいと願っています。

皆さんのご意見、ご要望にお答え致します。

皆さんからいろいろのご意見、ご要望を頂いています。そこで今回その一部についてお答え致します。

「Q、いやしの里を今後どのような方向に向けるつもりか」

「A、大変難しい質問ですが、いやしの里を設立した目的は、日頃の疲れを癒す「ほっと」する空間を作りたい、そして安全な旬の野菜などを作り、それを材料に料理を作り楽しみたい。

共通の考えを持つ仲間が集まり、時を忘れ、ワイワイ、ガヤガヤ、やれたらいいなー。それが本当の「癒し」になればと考えていました。

又、子供達に、昔ながらの遊びであるとか、風習であるとか、祭りであるとか、その土地、地域にある伝統文化を伝承していったらいいなー、とも思っていました。

今もその夢は変わっていません。これからもイベントや、季節の種まき、苗植え、手入れ、収穫などの作業を通して、会員、非会員を問わず、多くの皆さんに来園して頂き、日頃の疲れを癒して頂けたらと思います。

そして、志を同じにする皆さんが、仲間意識を持ち、来園者同士、仲間作りを広げてくれたら有難いと思っています。更に夢を広げて、いやしの里が大人の「ユートピア」になったらいいなー、とも思っています。

話は飛躍しますが、今、日本の農業はいろいろな意味で岐路に立たされていると言われています。その中の一つに後継者問題があります。若者の農業離れが進み、後継者が居なくなると言う話です。しかし、待つて下さい。農業の担い手を若者だけに託さなくてもいいのではないのでしょうか。

今後、サラリーマン生活をして退職される方が多くなります。六十歳台と言えはまだまだ元気です。あと十年、十五年は充分働けます。熟年パワーに日本の農業を全て任せるとは言いませんが、その一翼を担うことは可能でしょう。農業を楽しむ。体を動かし、汗を流し、安全で、旬に取れるものを自分で作る。

そして、仲間と語り、賞味する。これなら出来るでしょう。自然を相手に自然を楽しむ。自然の恵みを受ける。自給自足とまではいかないまでも、こんな贅沢があってもいいのではないのでしょうか。健康第一、楽しい汗を流したいと願うのですが如何でしょうか。」

（裏面に続きます）

「Q、何故無農薬にこだわるのか、良い生産物を作る為には最低限の農薬は必要ではないのか」

「A、この農園を設立した主旨の中で、食の安全を考える時、作物を無農薬、有機肥料で作りたいと考えました。そして、この主旨に賛同する人々を会員に募って来ました。そして今日まで無農薬に拘泥してきました。

今後ともこの主旨は大事にしたいと考えていますが、会員の皆さんが、主旨を変えざるべきとの結論を出せば、それは尊重しなければならぬでしょう。

その時は新しい執行体制を作り、運営願いたいと思います。

現在の運営委員の中にも、最低限の農薬は使用すべきと主張する人もいます。

一方、農薬を使わなくても良いものが出来る作物を作れば良いと言われる人もいます。いずれにしても、農園運営は会員の皆さん自身ですから、いろいろ議論して頂くのは結構と思います。そして良い方向に持つて行って頂ければ良いのではないのでしょうか。

唯、例えば良い作物が出来なくても、食べて安心、安全であれば、それで満足は出来ないでしょうか。

「いしの里」として利益を生み出す為、外部に販売するというのであれば、売れるものを作る必要は感じます。

しかし、会員の皆さんが「癒しの里」で作られるものは、例えば見た目は悪くても、旬に出来た新鮮なもので、且つ、無農薬だから、安全、安心なんだと理解して頂き、会員同士で消費するのであれば問題は無いと思うのですがいかがでしょうか」



「Q、折角来園しても、仲間に入れてあげず、孤立して二度と来園しなくなる人がいる。何とか仲間に入れる工夫してはどうか」

「A、大変難しい意見ですが最もと思います。折角来園したのですから会員になつて頂いて、引き続き来園して欲しいと思います。

まず必要なことは来園して頂く目的が、私達の農園運営の主旨に賛同してくれることが第一ではないでしょうか。新しく来園して下さい。皆さんに、運営主旨など良く理解して頂く為に、話し合いをするとか、説明をする必要はあると思います。その際は会員の皆さん全員にご協力頂き、新しい来園者に接して頂けるようお願い致します。

一人の人から聞くよりはより多くの人から農園運営の実態を聞いて頂いた方が理解が深まると思います。又、広報活動としても、出来るだけ「会報」を発行するよう努めます。皆さんのご投稿を待つていきますのでよろしくお願い致します。」

「Q、会員がイベントだけでなく、いろいろな農作業に参加できるようにしてはどうか」

「A、大賛成です。

元々農園は会員はもちろん、非会員の皆さんにも自由に入入りして頂き、農作業を楽しんでもらおうと始めました。

季節のものを旬の時に、取り立ての新鮮なうちに食べてもらうのが一番です。では現在はどうかと言うと、本当に一部の人々が、汗を流して一生懸命畑を耕し、種や苗を植え、手入れをして、育て収穫する。それをイベントで使い、フリーマーケットで販売すると言うのが現状です。

昨年より運営委員会が発足し、それまでよりは作業をしてくれる人が増えましたが、まだまだ本来の姿ではないと思つています。

会員の皆さん始め、出来るだけ沢山の人の作業に加わって頂き、安全、安心な旬の味を楽しんでもらうのが一番です。

唯、難しいのは種をまく、苗を植える、育てる、収穫をする、これらの作業予定を全て皆さんに知らせることが、大変難しいと言ふことです。

例えば、種まきを予定して皆さんに知らせても、雨が降れば作業中止です。

次はいつ？連絡方法は？
今は、「電話、ファックス、Eメールの時代難しいことはないよ」と言われればそれまでですが、連絡網の確立をどうしたら良いか、いい方法があったらご提案下さい。
ちなみに現在、イベントなどの案内は、全てハガキに頼っています。毎週、会員、非会員の皆さんに60〜70通 発信しています。」

「Q、もっといろいろな野菜、作物を作ったらどうか」

「A、大変結構と思います。ぜひそのようにして頂きたいと思ひます。要は誰がいつ作業をするかということに尽きると思ひます。

皆さんが沢山集まり、和気あいないと作業をして収穫を楽しめるような、そんな農園が出来たら心から願つています。

何よりも作業をして下さる人達を沢山集めることが重要ですし、作業予定—実施に至る連絡網の確立が不可欠と思ひます。

良い方法を考えて下さい。
畑は現在約五反歩作っています。
畑を増やすことはまだまだ可能です。」



【編集後記】

日本にとって昨年は災害続きで、余り良い年ではありませんでした。
今年はどうでしょうか。
新年明けて今のところ平穏無事ですがこれからどうなのでしょう。
世界に蔓延るテロが無くなり、平和が訪れることを祈るうではありませんか。そして、「いしの里」にも沢山の人が癒しを求めて来園されることを願っています。
(七字 記)

お花見会のお知らせ

水戸の「梅祭り」もたけなわですが、皆様お元気でお過ごしのことと思います。

さて、間もなく桜の便りも聞かれると思いますが、当園のしだれ桜の見頃に

合わせ、今年もお花見の会を開きたくご案内申し上げます。

催しものと致しまして昨年と同じ様にミニコンサートを企画しました。
5人のメンバーによるライブショーをお楽しみ下さい。

皆様お揃いでのご来園を心よりお待ちしております。

記

日時：4月10日（日）午前11時～

会費：会員 800円

非会員 1,000円

お子様（小学生）500円

昼食：つきたて“草もち”、打立て“そば”、
手作り“甘酒”、その他



以上

コミュニティ - 農園 **“いやしの里”**

代表 小林 利信

〒311-4312 城里町磯野284

(電話：029-288-4882)